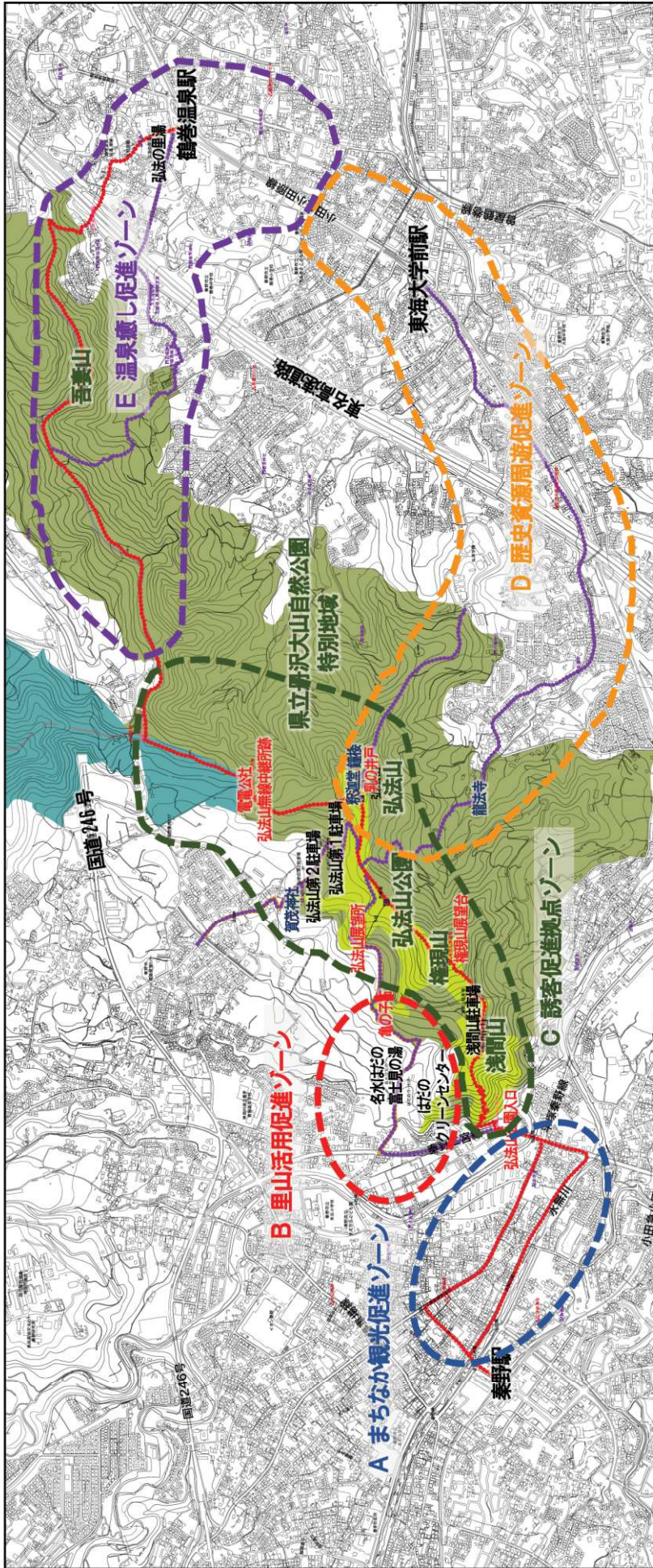


## 4. 弘法山公園の利活用に向けた課題

弘法山公園利活用の計画条件及び弘法山公園の利活用に関するニーズから考えられる、弘法山公園の利活用に向けた課題は以下のとおりです。また、各地域における主な課題を解決すべく、次頁のとおりゾーニングしました。

表 弘法山公園の利活用に向けた主な課題

項目	主な課題
上位・関連計画からの課題	・弘法山公園を活用した3駅周辺の活性化
	・馬場道広場などの有効活用
	・各種維持管理（景観の保全、トイレ等の維持管理）
	・市民による有効活用の促進
現況とポテンシャルからの課題	・公園周辺を含めた魅力向上（散策路・展望空間等の安全対策・利便性向上、情報発信の強化、希少植物の保全・活用、ヤマビル対策等）
	・利用機能の強化（アクセスの強化、景観や動植物資源の利活用の強化、イベントの実施等）
	・来訪者の増加及び消費拡大等の地域活性化
	・市有地の活用、景勝地などの用地取得の検討
来訪者ニーズからの課題	・施設整備（園内及び登山道等サインの充実、駐車場の増設やバリアフリー化、園路の改良、飲食・物販施設の整備、ベンチ・トイレ等の増設、野鳥観察施設の修理等）
	・管理運営（イベントの定期開催、眺望障害木の除去、トイレの清掃管理等）
	・環境保全（現在の自然環境の保全）
地域ニーズからの課題	・豊かな自然環境の保全・活用（眺望の保全、森林セラピーロードの魅力向上、遠足利用等）
	・利便性の向上（駐車場の拡充、施設や園路のユニバーサルデザイン化、道標の充実、シェアサイクルの導入）
	・周遊性の向上（3駅からのハイキングコースの適正管理、商店街での購買優遇制度の導入等）
	・広報宣伝の展開（歴史・文化資源のPR、公共交通事業者と連携したPR、公園マップの作成）
	・各種整備（飲食・物販施設、自然観察の森、農産物直売所、観光農園、子供の遊び場等）



<p><b>A まちなか観光促進ゾーン</b></p> <p>各商店会と河川敷を通る2つのハイキングコースがあるため、コース沿いにあるお店や文化財、名水等の地域資源を活用した取組が必要ですが、また、まちなか観光を促進するため、地域住民に配慮しながら、地域活性化につながる新たなコース設定や取組が必要ですが、加えて、ハイカー等が通過する時間帯を見据えたうえで、定期的なイベントを開催する等、既存の観光客の取り組み策が必要ですが、</p>	<p><b>B 里山活用促進ゾーン</b></p> <p>「はだのクリンセンター」の建設に伴う施設周辺の土地利用方針の趣旨を踏まえ、里山を活用した取組が必要ですが、また、「名水はだの富士見の湯」と連携した取組や整備により、新たな誘客を生む取組が必要ですが、加えて、農業体験機能の創出として、「はだのクリンセンター」の余熱の活用等を利用した検討も必要です。</p>	<p><b>C 誘客促進拠点ゾーン</b></p> <p>3駅をつなぐ観光拠点として、ハイカー等の観光客の需要に応え、誰もが安全・安心に利用できるよう維持管理や整備をするほか、弘法山公園を拠点に活動する団体等とも連携した取組が必要ですが、また、弘法山公園の魅力である優れた景観や豊かな自然環境を生かした新たな魅力づくりが必要ですが、加えて、周辺には十分に活用されていない広場等があるため、有効な利活用について検討が必要ですが、</p>	<p><b>D 歴史資源周遊促進ゾーン</b></p> <p>弘法山公園の利用に東海大学前駅を利用する人は少なく、情報も少ないため、アクセス強化や情報発信が必要ですが、特に、弘法山公園から東海大学前駅までのハイキングコースでは、お店や文化財等の地域資源を活用した取組により魅力の向上を図るほか、道標の整備や効果的な広報宣伝等が必要ですが、また、学生街という特長を生かした誘客促進策の検討も必要です。</p>	<p><b>E 温泉癒し促進ゾーン</b></p> <p>鶴巻温泉等を生かした、にぎわい創造に加え、鶴巻温泉旅館組合等の事業者と連携したイベント開催や商品開発等の取組が必要ですが、また、小田急電鉄や神奈川中央交通等の交通機関や観光事業者等との協働による弘法山公園の魅力の情報発信も重要ですが、加えて、鶴巻温泉等との協働による弘法山公園利活用プロジェクトの展開が求められます。</p>
---	---	---	---	---